

農研機構 ミニ農村の紹介

【ポイント】

実物大の農村を作成したネイチャーポジティブ
二次的自然の生物多様性
継続的管理の重要性

ミニ農村研究（ムラーノラーヤマの緑地配置）

- 農環研設立直後からミニ農村の造成に着手
- 研究所内に実物大で設置
- 周辺の集落からの生物の移動実態を調査

周辺農村からの生物種の移動・定着を調査

隣接する既存集落

研究本館



用水路

ムラの緑

社寺林

1990年完成
(造成)

屋敷林

1990年～現在
(既存・改良)

ノラの緑

畑（試験ほ場）

1982年完成
(農技研造成)

谷津田

1989年完成
(造成)

ヤマの緑

平地林

1986年完成
(既存)

ミニ農村―谷津田の造成



ミニ農村に定着した生物たち

キイトンボ



オオイトンボ



ショウジョウトンボ



ヒガンバナ



アカシジミ



ウラゴマダラシジミ



タイコウチ



ムラサキサギゴケ



ノウサギ



カルガモ



アズマヒキガエル



スミレ



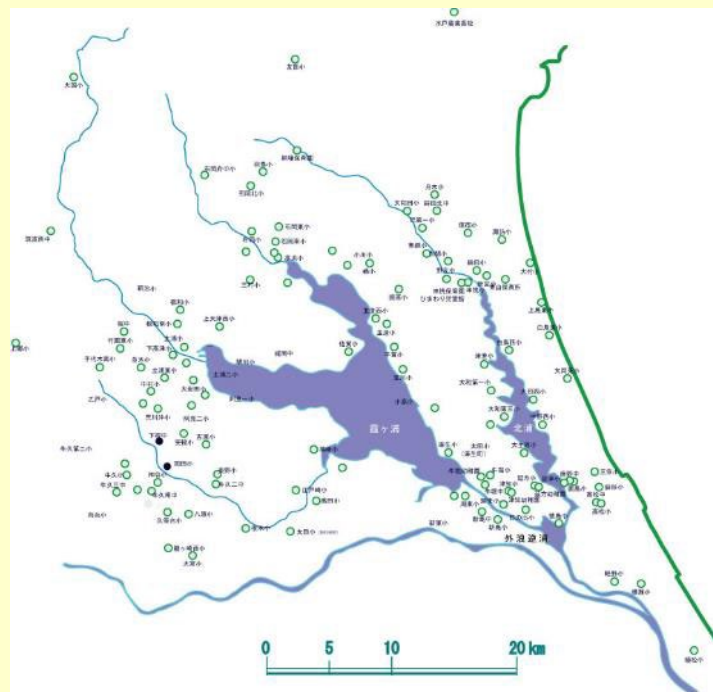
ビオトープ結合システム（農村環境の望ましい姿）

守山ら(1995)



ミニ農村における研究成果の波及

- ・「田んぼの学校」などの実践活動に繋がる。
- ・全国の学校ビオトープ、水田および休耕田ビオトープへ応用。
- ・平成21年度には文部科学大臣表彰、平成23年度には日本農業研究所賞を受賞。



茨城県の小中学校ビオトープ



学校ビオトープ(滋賀県の事例)

<http://www2.higashiomi.ed.jp/kot2sho/>から